

# 2022年度「学びの実態調査」

Doshisha Univ. Student Learning Experience Survey AY2022

調査結果ダイジェスト

(調査実施期間：2022年11月1日～11月22日)



同志社大学  
Doshisha University

[発行]2023年3月 [作成・お問い合わせ] 同志社大学 学習支援・教育開発センター ☎075-251-3277 ✉ji-kyoik@mail.doshisha.ac.jp



# 2022年度「学びの実態調査」結果概要

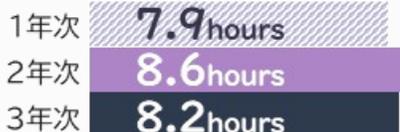
## 2022年度秋学期 各種活動に取り組んだ時間

平均活動時間(1週間あたり)

### 授業の受講



### 授業時間外の学習



### 読書



### クラブ・サークル活動



### アルバイト



- ▶ 授業の受講に費やす時間は、1年次や2年次では18時間をこえる。それと比べると、3年次は短く、約13時間。
- ▶ 授業時間外の学習には8時間前後、取り組んでいる。前年度から減少傾向。
- ▶ クラブ・サークル活動に参加した時間は4~5時間。前年度から微増している。

## 2020年度、21年度と比べて、対面授業で受講する科目数が増加。

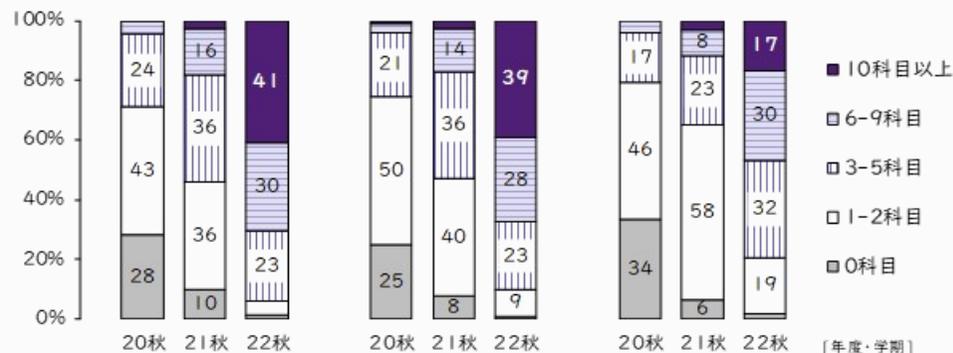
受講方法別に、秋学期に履修した科目数を調査



1年次

2年次

3年次



5%未満の場合、グラフ内に集計値を表示していません。

- ▶ 1年次の変化をみると、対面授業で10科目以上受講した学生は、2020年度秋学期は0.1%、2021年度秋学期は3%。ごく少数にとどまっていたが、2022年度秋学期には4割を上回った。2020年度以降、対面授業で受ける科目が大幅に増えていることがわかる。
- ▶ 逆に0科目だった学生は、2020年度秋学期は28%、2021年度秋学期は10%、2022年度は1%。この3年間に減少し続けている。
- ▶ 2年次でも、対面授業で10科目以上受講した学生が増えている。
- ▶ 3年次は、1年次や2年次と比べて履修科目数自体が少ない傾向にあるため、10科目以上受講した学生の増加幅が小さい。しかし、対面授業で受講する科目数がなかった(0科目)学生は、この3年間で減り、3-5科目あるいは6-9科目受講した学生が増え続けている。
- ▶ また、オンデマンド型授業や双方向オンライン型授業で受講する科目数は、2020年度以降減っている傾向にあった(グラフは省略)。

# 2022年度「学びの実態調査」結果概要

大学での学びをどのように受けとめているのか？  
授業でどのように学び、どのように学習に取り組んだのか？

2020年度と比べると、“学びの共同体”としての大学の機能が強まりつつある。



「大学で学ぶことは楽しい」と感じている学生



▶ 8割以上の学生が、大学での学びを肯定的にとらえている。1、3年次については、2020年度以前と比べても大きな違いはない。

「授業に参加できている」と感じている学生



▶ 授業参加実感は2020年度春学期には4割を下回っていたが、その後は順調に上昇し続けている。

授業でグループ・ワークに取り組んだ学生



▶ 2020年度は6割を割り込んでいたが、2022年度には7割以上の学生が他の受講生と共同作業をしながら授業に取り組んでいる。

「教員が学生の理解度や到達度をチェックし、ふり返りや補足を挟みながら授業が進められた」と感じている学生



▶ 学生が何を学んだのかを大事にしながら、授業がおこなわれている。

添削された提出物を受け取った学生



▶ 受講生全体に提供される、ふり返りや補足の機会と比べると、学生が個別にフィードバックを受ける機会は少ない。

SA(スチューデント・アシスタント)やTA(ティーチング・アシスタント)から助言を受けた学生



▶ 前年度から増えている。授業の担い手は、学生と教員だけではない。

授業内容について、他の学生と教え合い、情報交換をした学生



▶ 学生同士の学び合いは、前年度から増えている。教員に教えてもらうことだけが、大学での学びではない。

# 2022年度「学びの実態調査」実施概要

## □ 調査趣旨

- ▶ 「学びの実態調査」は、本学独自の学修行動調査である。その目的は、本学の教育に学生がどのように取り組み、自身の学びをどのように受けとめているのかを調べることにある。学修者の自己評価にもとづいて、本学の教育に関する基礎的なデータを集め、学習成果や教育効果の測定・評価を組織的に実施し、教育プログラムや教育研究環境のより一層の充実を目指す。本学の教育の実態や学生の学びの現状に加え、学年進行にともなう学生の成長、学年や入学年度による違いも把握できるような調査設計になっている。
- ▶ 本調査の前身である「キャンパスライフに関するアンケート調査」（1年次対象調査は2004年度開始、3年次対象調査は2006年度開始、2年次対象調査は2021年度開始）をベースに、正課教育に関係する設問の比重を以前より増やすなどして、学内で実施している他の学生調査との連携を強化した。これにともない、調査名を「学びの実態調査」に変更した。

## □ 主な調査項目

- ①回答した学生のプロフィール(所属学部・学科、入試区分、大学入学前の第1志望先、通学区分)
- ②正課内外の学びへの取り組み(授業経験、受講方法別の秋学期の授業科目数、授業内外の学習状況、生活時間、クラブ・サークルへの加入状況など)
- ③学びの受けとめ方(所属学科のディプロマ・ポリシーの到達度、能力・スキルの獲得実感、大学への適応感、教育満足度、生活実感など)
- ④卒業後の希望進路

## □ 実施方法と実施期間

- ▶ 2021年度に実施した「キャンパスライフに関するアンケート調査」同様、本調査もWEB調査で実施した。実施にあたって、本学専用の授業支援システム(LMS)「e-class」のアンケート機能を利用した。
- ▶ 以前は、秋学期末に調査を実施していたが、2021年度以降、11月に調査時期を繰り上げ、同年度3月の成績通知のタイミングに合わせて、回答した学生への個別フィードバック情報を提供している。新年度の履修計画を立てるうえで、この個別フィードバック情報をもとに、学生が自身の学習状況や成長をふり返ることができるようになっている。

	1年次	2年次	3年次
調査対象者	2022年度生(正規学部学生全員)	2021年度生(正規学部学生全員)	2020年度生(正規学部学生全員)
調査実施期間	2022年11月1日～11月22日		
調査実施方法	WEB調査		
有効回答数	1,697件	1,037件	812件
有効回答率	26.4%	16.7%	13.6%